

SCOUT NEWS

本願寺派スカウト指導者会発足60周年



伝灯奉告法要ご親教 念仏者の生き方

仏教は今から約 2500 年前、釈尊がさとりを開いて仏陀と
なられたことに始まります。わが国では、仏教はもともと
仏法と呼ばれていました。ここでいう法とは、この世界と
私たち人間のありのままの真実ということであり、これは時
間と場所を超えた普遍的な真実です。そして、この真実を
見抜き、目覚めた人を仏陀といい、私たちに苦悩を超えて
生きていく道を教えてくれるのが仏教です。

仏教では、この世界と私たちのありのままの姿を
「諸行無常」と「縁起」という言葉で表します。「諸行無常」
とは、この世界のすべての物事は一瞬もとどまることなく
移り変わっているということであり、「縁起」とは、その一
瞬ごとにすべての物事は、原因や条件が互に関わりあっ
て存在しているという真実です。したがって、そのような
世界のあり方の中には、固定した変化しない私というもの
は存在しません。

しかし、私たちはこのありのままの真実に気づかず、自
分というものを固定した実体と考え、欲望の赴くままに自
分にとって損か得か、好きか嫌いかなど、常に自己中心の
心で物事を捉えています。その結果、自分の思い通りにな
らないことで悩み苦しんだり、争いを起こしたりして、苦悩
の人生から一歩たりとも自由になれないのです。このよう
に真実に背いた自己中心性を仏教では無明煩悩といい、こ
の煩悩が私たちを迷いの世界に繋ぎ止める原因となるので
す。なかでも代表的な煩悩は、むさぼり・いかり・おろか
さの三つで、これを三毒の煩悩といいます。

親鸞聖人も煩悩を克服し、さとりを得るために比叡山で
20年にわたりご修行に励まれました。しかし、どれほど修
行に励もうとも、自らの力では断ち切れない煩悩の深さを
自覚され、ついに比叡山を下り、法然聖人のお導きによっ
て阿弥陀如来の救いのはたらきにあ出遇われました。
阿弥陀如来とは、悩み苦しむすべてのものをそのまま救い、
さとりの世界へ導こうと願われ、その願い通りにはたらき

続けてくださっている仏さまです。この願いを、本願とい
います。我執、我欲の世界に迷い込み、そこから抜け出せ
ない私を、そのままの姿で救うとはたらき続けてしてくだ
さる阿弥陀如来のご本願ほど、有り難いお慈悲はありません。
しかし、今ここでの救いの中にありながらも、そのお
慈悲ひとすじにお任せできない、よろこべない私の愚かさ、
煩悩の深さに悲嘆せざるをえません。

私たちは阿弥陀如来のご本願を聞かせていただくことで、
自分本位にしか生きられない無明の存在であることに気づ
かされ、できる限り身を慎み、言葉を慎んで、少しずつつ
つとも煩悩を克服する生き方へとつくり変えられていくのです。
それは例えば、自分自身のあり方としては、欲を少なくし
て足ることを知る「少欲知足」であり、他者に対しては、
穏やかな顔と優しい言葉で接する「和顔愛語」という生き
方です。たとえ、それらが仏さまの真似事といわれようとも、
ありのままの真実に教え導かれて、そのように志して生き
る人間に育てられるのです。このことを親鸞聖人は門弟に
宛てたお手紙で、「(あなた方は) 今、すべての人びとを救
おうという阿弥陀如来のご本願のお心をお聞きし、愚かな
る無明の酔いも次第にさめ、むさぼり・いかり・おろかさ
という三つの毒も少しずつ好まぬようになり、阿弥陀仏の
薬をつねに好む身となっておられるのです」とお示しにな
られています。たいへん重いで教示です。

今日、世界にはテロや武力紛争、経済格差、地球温暖化、
核物質の拡散、差別を含む人権の抑圧など、世界規模での
人類の生存に関わる困難な問題が山積していますが、これ
らの原因の根本は、ありのままの真実に背いて生きる私た
ちの無明煩悩にあります。もちろん、私たちはこの命を終
える瞬間まで、我欲に執られた煩悩具足の愚かな存在であ
り、仏さまのような執われのない完全に清らかな行いはで
きません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生き
ていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他
者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまの
お心にかなう生き方を目指し、精一杯努力させていただく
人間になるのです。

国の内外、あらゆる人びとに阿弥陀如来の智慧と慈悲を
正しく、わかりやすく伝え、そのお心にかなうよう私たち
一人ひとりが行動することにより、自他ともに心豊かに生
きていくことのできる社会の実現に努めたいと思います。
世界の幸せのため、実践運動の推進を通し、ともに確かな
歩みを進めてまいりましょう。

2016 (平成 28) 年 10 月 1 日

浄土真宗本願寺派門主 大谷光淳

【※このご親教は、伝灯奉告法要初日にお示しくださいました。】



第 25 代専門主伝灯奉告法要記念 「本願寺派スカウト指導者のつどい」「仏教章修得者フォーラム」 ～スカウト指導者会発足 60 周年～

2016（平成 28）年、本願寺派スカウト指導者会は発足 60 周年を迎えました。
仏教精神に基づいたスカウト活動の実践を確認しあうため、法要参拝の後、記念行事を開催いたしました。



伝灯奉告法要参拝（本願寺御影堂）

2016（平成 28）年 10 月 8 日（土）



指導者のつどい（京都東急ホテル）

大谷光真 前門様お言葉

伝灯奉告法要に応じて本派スカウト指導者会発足 60 周年記念のつどいが開かれましたこと、誠にありがたく、嬉しく、感じます。本来なら現門主がご挨拶するのがより望ましいところでありますけれども、伝灯奉告法要だけは代理がききませんので、体力を温存しまして、法要に専念することになっております。私が代わりましてご挨拶を申し上げます。まず、60 年の間、創設以来、スカウト指導者会を中心に活動された先人の方々、そのお心を受けて各地で活動して下さる皆様方に敬意と感謝を申す次第でございます。教材の作成や、仏教章修得のための研修、その他スカウトの集い、キャンプ、様々な活動をしてられました。今日、宗教離れ、世俗化が進む次第ではありますが、そういう中で創始者の願いをうけて仏教精神をもってスカウトの運動を推進する、支える、そして同時に仏教精神を身につけた若いスカウトを育成する、大変大事な使命をもっていらっしやると思います。浄土真宗の教えは阿彌陀如来の智慧とお慈悲

に照らされ包まれて、自分自身を深く見つめる、欲望、煩惱に引きずられる私の姿を見つめるとともに、あらゆる命は阿彌陀如来の光の中にあるということ、人間同士、あるいは動物、植物の命のつながりを大切にしていって、そういう教えを受け取ることができると思います。私も 60 年前スカウトであったこと、40 年前にはスカウト指導者会に関わっていたことを思い出しながら、次の時代の方々が力強く受け継いでいってくださること、大変頼もしく嬉しく思っております。今日は仏教章修得者フォーラムにご参加の若いスカウトの方々も同席をしてくださっていると聞きました。ようこそご出席、ご参加くださいました。今後のご活躍を期待致しております。おめでとうございます。



▲お言葉を述べられる前門様



〔式次第〕
 開式の辞
 勤行（讃仏偈）
 土山和雅理事長 挨拶
 大谷光真前門様 お言葉
 スカウト新制服 献上
 石上智康会長（総長） 挨拶
 来賓紹介
 来賓代表 挨拶
 表彰状贈呈
 恩徳讃
 閉式の辞



仏教章修得者フォーラム（伝道院）

仏教章を胸にした本願寺派スカウト（ベンチャー・レンジャー・ローバー）を対象にフォーラムを開催。仏教章修得後の活動について情報交換し、今後自分たちが目指すべき方向を確認しあつた。



本派の仏教章を修得したことで今回集まれた。
 富士章をとる通過点にしてほしくない。
 そのため、仏教章の意味を理解し、伝えることが大切



**仏教章を通してスカウトの輪を大きく広げる
 「仲間の”わ”を広げよう」**

第3回東西スカウト合同研修会開催報告

- 開催趣旨 研修会を通じて真宗スカウトの指導者としての自覚を新たにし、より豊かな聞法者を育成するためのスカウティングの充実と互いの組織拡充ならびに交流を図る
- 主催 大谷スカウト連合協議会・浄土真宗本願寺派スカウト指導者会
- テーマ 青少年と宗教教育 ～なぜスカウトに宗教が必要なのか～
- 期日 2016（平成28）年2月27日（土）・28日（日）1泊2日
- 講師 幹 榮盛 先生（天台宗スカウト連合協議会前理事長・寶生院尊住）
佐々木 義英 先生（浄土真宗本願寺派総合研究所・教学伝道研究室長）
- 会場 聞法会館
- 参加人数 浄土真宗本願寺派 29名・真宗大谷派 34名 合計 63名

仏教章を修得して

B S長崎第9団ローバー隊 橋本 晴佳(大谷スカウト)

私は2012年に開催された「大谷スカウト名誉奉仕訓練」に参加し、仏教章を修得しました。仏教章を修得したものの、進学で地元を離れ京都に住まいを移した為、自団にての活動が思うようにできていませんでした。そのような状況でしたが、仏教章修得は私の中で自分自身の大きな自信に繋がり、スカウト活動でのモチベーションを上げる起爆剤ともなりました。

地域団に所属している私は、仏教章を修得するまでは、「宗教」や「仏教」という言葉を聞いても漠然としたイメージのみで、無知に近い状況でした。毎日の生活の中で宗教と関わる機会もなく、宗教について考えた唯一の時間は、ジャンボリーの信仰奨励の時間でありました。

しかし、修得してからは、様々な仏教行事に関心が湧き、仏教に関して少しずつですが知識も増え、もっと知りたいと思う気持ちが日に日に強くなっていきました。修得に向けた講義の中で、ある講師が仰った心に響いた言葉があります。

「甘いものを見つけたアリは必ず集団に持ち帰るが、人間はこっそり一人で食べようとする。」

まさにその通りであると、とても共感しました。

また、仏教章の修得は、普段のスカウト活動にも大きな変化をもたらしました。以前は、仲間が企画したものに乗っかり、言われたことを指示通りするだけのスカウト活動でしたが、修得を機に自分に、しっかりとした自信を持つことができ、自分たちの手で九州ユースを発足し、ユースキャンプを成功させることまで出来るようになりました。

スカウトが仏教章を修得した後の活動については、宗教団と地域団での格差があり、地域団での仏教スカウト活動の難しさが課題であると思います。

宗教団は今まで通り仏教行事を行い、地域団はそうした宗教団の行事に少しでも参加し、仏教と触れ合える機会をもって欲しいと思います。指導者も「隊長の話」や「ヤーン」などで、仏教の話を交え、スカウトの信仰に対する興味を深めていくと、仏教スカウトの増員や発展にも繋がるはずです。

仏教章を修得した私がやるべきことは、仏教についての知識をよりたくさん蓄え、自分自身を高めていくことと、地域団がより宗教に関わりたいたいという姿勢を持ってもらえるようにすることです。

宗教団が宗教について考えることは自然なことですが、地域団が宗教について考えることは中々難しい環境にあります。地域団が少しでも宗教について考えるようにするため、ハイキングの休憩中にでも「あらゆる全てのことに感謝する。」などの話をすることが、とても大切だと思います。

私自身、仏教章を修得しスカウト活動がより面白みを増してきました。

このような素晴らしい活動を後輩スカウトにも繋げていきたいと思います。これまではスカウトとして様々なことを教えていただきました。これからは、ひとりの指導者として、この思いを子供たちに伝え、仏教スカウトの発展を期待し、貢献していきたいと思います。

合 掌



■ 仏教章修得者名簿一覽

2015（平成27）年度 ボーイスカウト

No.	都道府県連盟	所属団	隊	名 前
1	神奈川県	横浜132	VS	小澤 葉奈
2	神奈川県	横浜132	VS	佐藤 杏実
3	栃木県	宇都宮1	VS	木内 亮太
4	栃木県	宇都宮1	VS	相馬 拓朗
5	栃木県	宇都宮1	VS	鶴牧丈太郎
6	栃木県	宇都宮1	VS	本橋 貫
7	栃木県	宇都宮1	VS	矢野 公平
8	栃木県	宇都宮15	VS	渡辺 涼子
9	栃木県	宇都宮15	VS	岩橋 香奈
10	福井	福井2	VS	山 博紀
11	福井	福井2	VS	鈴木健太郎
12	奈良県	高市1	VS	武村 直哉
13	奈良県	高市1	VS	関 祥範
14	奈良県	高市1	VS	的場 大空
15	奈良県	奈良17	VS	竹川 修平
16	大阪	大阪21	VS	齋藤 慶哉
17	大阪	狭山1	VS	松葉 稜
18	大阪	茨木3	VS	天野 黎生
19	大阪	茨木3	VS	佐坂 美月
20	大阪	茨木3	VS	木村俊太郎
21	大阪	大阪138	VS	下夷 尚輝
22	大阪	大阪85	VS	星川 恭賛
23	大阪	大阪85	VS	佐藤 裕紀
24	和歌山	海草1	VS	赤松 潤
25	和歌山	和歌山18	VS	島本 隼
26	和歌山	和歌山18	VS	藤木 貴也
27	和歌山	和歌山18	VS	古川 皓大
28	和歌山	和歌山22	VS	小畑雄二郎
29	和歌山	和歌山18	VS	栗山 航輔
30	和歌山	和歌山18	VS	正司 拓海
31	和歌山	海草1	VS	南 碧乃
32	和歌山	海草1	VS	橋本 瑞規
33	和歌山	海草1	VS	開田 亮佑
34	和歌山	海草1	VS	中山 歩海
35	和歌山	海草1	VS	西畑 光騎
36	和歌山	海草1	VS	一松 駿斗
37	兵庫県	兵庫10	VS	多田 晴佳
38	兵庫県	兵庫10	VS	橋本 真依

No.	都道府県連盟	所属団	隊	名 前
39	兵庫県	西宮22	VS	政所 重智
40	広島県	広島24	VS	國實美紗子
41	福岡県	福岡14	VS	長野 涼
42	福岡県	福岡14	VS	長野 友香
43	福岡県	福岡15	VS	蓮尾 紀樹
44	福岡県	福岡32	VS	立石 桂菜
45	宮崎	宮崎11	VS	鬼束 香奈
46	大阪	枚方9	VS	元吉 七海
47	大阪	枚方9	VS	川口 義之
48	大阪	枚方9	VS	山東 佑紀
49	大阪	枚方9	VS	パウル 快
50	福井	福井7	VS	山田 淳平
51	鹿児島	薩摩12	VS	米盛 佑紀
52	山口県	下松1	VS	広田 誠
53	山口県	下松1	VS	藤井 健太
54	京都	京都79	VS	塚本 尚千
55	京都	京都19	VS	横山 和明
56	福井	福井7	VS	富田 尚人
57	三重	桑名3	VS	鈴木 宏輔
58	京都	京都79	VS	伊藤 大稀
59	鹿児島	鹿児島2	BS	楠元 亮太
60	鹿児島	鹿児島2	BS	福元 海人
61	鹿児島	鹿児島2	BS	山下 千尋
62	兵庫県	西宮21	VS	山本 瑞季
63	兵庫県	西宮21	VS	山本 優季
64	京都	京都47	VS	桑島 弘喜
65	大阪	淀川北地区72	VS	石原 匠悟
66	大阪	箕面7	VS	倉智 翼
67	大阪	羽曳野4	VS	塩野 遼
68	岐阜県	岐阜1	VS	愛敬 智
69	岐阜県	高山2	BS	垣内 阜良
70	岐阜県	岐阜17	BS	小澤 伸也
71	岐阜県	岐阜17	BS	和田 希
72	岐阜県	岐阜17	VS	日比 亮佑
73	岐阜県	岐阜17	VS	和田 将亮
74	大阪	茨木6	VS	佐野 文飛
75	大阪	豊中22	VS	品川 遼太
76	神奈川県	横浜30	VS	飯塚 直人

No.	都道府県連盟	所属団	隊	名 前
77	東京	東大和2	VS	井上 竜汰
78	東京	東大和2	VS	萩野 晴史
79	東京	東大和2	VS	尾崎 莉来
80	神奈川県	横浜83	VS	鏡原 亮
81	東京	東大和2	VS	粕谷 光里
82	神奈川県	横浜94	VS	片桐 涼
83	東京	大田4	VS	小泉 龍佑
84	千葉県	千葉25	VS	杉下 舞
85	東京	大田4	VS	高輪 理玖
86	神奈川県	横浜30	VS	高橋 寿也
87	東京	小平1	VS	寺崎 詠介
88	千葉県	船橋10	VS	吉田 周生
89	東京	狛江1	VS	大久保嵩琉
90	東京	狛江1	VS	原田 和昌
91	東京	狛江1	VS	山本 浩平
92	静岡県	三島5	VS	井口 俊亮
93	静岡県	大仁1	VS	石井 亜唯
94	静岡県	三島5	VS	岡野 莉子
95	静岡県	三島3	VS	鎌田 晃成
96	静岡県	函南1	VS	久保田浩稔
97	静岡県	大仁1	VS	公野 愛
98	静岡県	三島5	VS	小島正次郎
99	静岡県	三島3	VS	駒走 聡俊
100	静岡県	三島3	VS	佐藤 春輔
101	静岡県	函南1	VS	鈴木 悠斗
102	静岡県	三島5	VS	中田 愛莉
103	静岡県	三島3	VS	山田 一帆
104	静岡県	三島5	VS	山本 博斗
105	栃木県	宇都宮15	VS	大山笑理子
106	栃木県	宇都宮15	VS	齋藤 希弥

2015（平成27）年度 ガールスカウト

No.	都道府県連盟	所属団	隊	名 前
1	栃木県	3	Rn	川合 紗瑛
2	栃木県	3	Rn	鈴木 樹里
3	栃木県	3	Rn	福田 莉瑚

■2017 (平成29) 年度 本願寺派スカウト指導者会 活動方針並びに事業計画

スローガン

仏教章を胸に

活動方針

専如ご門主ご親教「念仏者の生き方」の意を体し、豊かな聞法者を育成するためのスカウティングの充実と組織拡充に努める。

重点目標

- 1 東日本大震災をはじめとする被災地への支援活動継続的展開
- 2 聞法者の育成ーちかいとおきての実践を通してー
- 3 組織の拡充
- 4 各教化団体と情報交換し、「子ども・若者ご縁づくりーキッズサンガをさらにー」に積極的に取り組む
- 5 第 25 代専如門主伝灯奉告法要の参拝を奨励する

事業計画

組織拡充・広報委員会

- ① 組織拡充に関する研究調査
- ② 組織拡充に関する活動（子ども・若者ご縁づくりに積極的に取り組む）
- ③ 『スカウトニュース』の発行
- ④ ホームページの運営

教材委員会

- ① 仏教章の指導者及び教導職のための手引の検討
- ② 『仏教章修得に向けたテキスト』・『スカウト聖典』の活用
- ③ 『「ちかい」と「おきて」の意味』『「やくそく」と「おきて」の意味』の周知徹底

研修委員会

- ① 仏教章修得について
(イ) 仏教章研修会の充実
(ロ) 仏教章に対する啓蒙
(ハ) 仏教章修得者の掌握
- ② 仏教章修得者の集いを計画（旧：仏教章修得者フォーラムの計画・実施）

本年度の目標

- 1 東日本復興支援活動の実施
- 2 各種研修会の参加奨励
- 3 仏教章修得者の倍増
- 4 『「ちかい」と「おきて」の意味』・『「やくそく」と「おきて」の意味』の活用
- 5 宗門関係学校へはたらきかけ、指導者を育成する
- 6 第 25 代専如門主伝灯奉告法要記念事業の実施

- ③ 第 12 回仏教章修得のための研修会
〈開催日：2018（平成 30）年 3 月予定〉
- ④ 本願寺派スカウト中央研修会の内容精査
- ⑤ 研修スタッフ養成の実働（BS 指導者講習会の実施）
- ⑥ 教区スカウト指導者会、スカウトクラブ研修会への協力

ガールスカウト委員会

- ① 仏教章修得への働きかけ
- ② 本派スカウト指導者の育成
- ③ 沙羅 -sara trees-（本願寺派ガールスカウトヤングリーダー）の充実
- ④ 各種行事、研修会への参加を単元取得につなげる
- ⑤ ガールスカウトリーダー研修会の検討

行事・国際委員会

- ① 東日本大震災をはじめとする被災地への支援活動継続的展開
- ② 伝灯奉告法要記念 本願寺派スカウト大会の計画・実施
- ③ 海外研修の検討

第 25 代専如門主伝灯奉告法要記念

本願寺派スカウト大会 in 本願寺を開催します。

1. テーマ うけつぐ伝灯 伝えるよろこび ～深めよう 仲間とスカウトの絆～
2. 会場 会場：西本願寺（京都市下京区堀川通花屋町下ル）
会場・宿泊：本願寺山科別院（京都市山科区東野狐藪町 2 番地）
3. 期間 2017（平成 29）年 8 月 4 日（金）～ 6 日（日）2 泊 3 日
4. 宿泊方法 舎営およびテント泊（マーキー）
※指導者会でマーキーテントを設置いたします。
※シュラフ持参のこと
5. 食事 給食形式（自炊はできません）
6. 参加資格 次のいずれかの条件に該当する者
(1) 本願寺派スカウト指導者会登録団のスカウトおよび指導者
(2) 本願寺派スカウト指導者会個人登録者
(3) 本願寺派仏教章修得者
但し、B Sカブ以上、G Sブラウニー以上の募集とする。
※G Sテンダーフットの参加については、各団一任とする。
※見学隊の募集は行わない。
7. 募集人員 約 300 名 (1) 舎営 100 名 (2) マーキーテント泊 200 名
8. 参加費 ￥8,000 -
※参加費は、期間中の宿泊・食事、記念品、プログラム等に充当いたします。
※一部プログラム（場外プログラム等）において、参加費を別途徴収する場合があります。
※詳細日程・プログラム等については各団宛てに送付いたします開催要項をご参照ください。

編集後記

スカウト指導者会発足 60 周年を迎えて、創始者である BP の教育理念のもと阿弥陀仏のみ教えをもってスカウト活動に励んでこられた諸先輩方の篤き想いをむねに、これを機とし次の時代に向けてますます精進していかねばと思いました。

なお平成 29 年度は「本願寺派スカウト大会 in 本願寺」“うけつぐ伝灯 伝えるよろこび”をテーマに開催いたしますのでぜひご参加下さい。

組織拡充・広報委員長
下間 賢了

[発行日]

2017（平成 29）年 3 月 15 日

[発行]

浄土真宗本願寺派スカウト指導者会
京都市下京区堀川通花屋町下ル
浄土真宗本願寺派宗務所
寺院活動支援部 組織教化担当内
電話：075-371-5181（代表）
FAX：075-351-1211
HP：<http://scout.hongwanji.or.jp/>

復刊第 7 号